

令和3年度第2回千葉市図書館協議会議事録

1 日 時 令和4年3月24日(木) 10時00分～11時45分

2 場 所 千葉市消費生活センター3階 研修講義室

3 出席者

(1) 委員

吉野知義 委員長・綾部輝幸 副委員長
萩原忠 委員・新澤敬子 委員・石渡明子 委員・能勢仁 委員
江波戸正子 委員・松尾修一 委員・木元美子 委員

(2) 事務局

中島中央図書館長・山崎中央図書館情報資料課長・高石みやこ図書館長・
三浦花見川図書館長・平岡稲毛兼美浜図書館長・山崎若葉図書館長・真田緑図書館長

(3) 傍聴人

7人

4 議 事

(1) 令和4年度予算及び事業計画について

(2) その他

5 概 要

(1) 令和4年度予算及び事業計画について

- (ア) 令和4年度予算及び事業計画について〔事務局説明〕
- (イ) 質疑応答・協議

(2) その他

- (ア) 花見川図書館・こてはし台公民館複合化について
- (イ) 千城台公民館・若葉図書館の移転について
- (ウ) 稲毛図書館空調設備改修工事に伴う一部利用の制限解除について

6 会議経過

<開 会>

- 会議資料の確認
- 中央図書館長あいさつ
- 事務局より協議会の成立について報告
- 会議の公開について
- 図書館協議会委員長あいさつ

<議事>

(1) 令和4年度予算及び事業計画について

吉野委員長 それでは、議事(1)令和4年度予算及び事業計画について事務局からの説明をお願いいたします。なお、質疑につきましては、議事の説明後にお伺いいたしますのでよろしくお願いいたします。

中島館長 中央図書館長の中島でございます。議事(1)令和4年度予算及び事業計画について説明いたします。

《議事(1)令和4年度予算及び事業計画に関する説明》

吉野委員長 説明ありがとうございます。では只今の予算と事業計画について質問、ご意見ございましたら挙手をお願いします。

木元委員 よろしく申し上げます。最初に予算についていくつか質問させていただきま
す。地区図書館の資料費が令和2年度から令和3年度も減っていたのですが、令和4年度に更に資料費が減少しております。その地区図書館の資料費の減少の理由をお聞かせいただきたいのが1点と、あと電子書籍の整備費89
9万円ですが、こちらは資料費にすでに含まれているのかどうかひとつお聞か
せください。あと先ほど図書館システム関係費については館長さんからご説明
がありましたが、図書館システム関係費というのがちょっとよくわからなくて具
体的にどういった項目があるのかというのをお聞かせいただきたいと思いま
す。あともう1点すみません、こちらの表にはないのですが市の方の予算案です
ね。3月7日にあった議会の方の予算案で図書館運営費の支出先の方に国費
1,256万円とあるのですが、国費というのはどういった予算からきているのか
そちらも聞かせいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

吉野委員長 4つご質問いただきましたが事務局の方からご説明いただきますでしょうか。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課です。電子書籍の関係ですが予算的には資料費
の中に含まれております。以上でございます。

中島館長 中央図書館管理課でございます。まずシステム関係費でございますけれ
ど、図書館システムは、中央図書館、地区図書館、分館、公民館図書室にお
いておまして、皆さまがご覧になっているもの、そして、作業的に行っている
図書館システムの更新の経費でございます。基本的なシステムでございますと
か、そのほかに自動貸出機の関係でございますとかその辺の経費になってい
るところでございます。続きまして国費でございます。1,200万円ほどの国費が
ついています。それが何かということでございますが、まず1点目が電子書籍に
国費が入っているところがございます。電子書籍に入っているのが1点でござ
いますのと。

木元委員 すみません、途中で。国費がどのように入っているのではなくて国費という
ものが補助金か何か国から出たのかということをお聞きしたかった。

中島館長 はい、すみません。国費ですけど地方創成交付金の関係でございま
して、その関係でコロナの関係の経費を購入した時に出るもの。そして電子
書籍のときに出るものというふうに入っているところでございます。

木元委員 電子書籍についても国から補助金みたいなものが出ているということ
ですね。ありがとうございます。すみません、地区図書館の資料費が減っている
のついでに、電子書籍が資料費に含まれているということなので電子書籍分を
引きま

すと紙の資料費に関しては減額が続いていることになるんですね。昨年も電子書籍分300万円が入っていて、資料費がほぼほぼ変わっていなかったものが今年は資料費から電子書籍代を差し引くとかなりの減額ということになっていると思うんですが、その辺りもお聞かせください。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課です。電子書籍に関して資料費に入っているということなんですが、やはり市の財政の方もコロナ関係等でかなり厳しい状況にありまして、全体的に先ほど地区館の資料費も話が出ましたけれど減額されていると。どうしても削らなければならない部分もございました。ただ電子書籍分については中央図書館の資料費の中からお金を持つてくるのではなく、先ほど言ったように国費を使って。電子書籍はコロナの交付金がございますので。コロナ対策として電子書籍は認められましたので全額国費でやっていきたいと思っております。

吉野委員長 以上、追加分含めてお答えいただいたと思います。よろしいでしょうか。では能勢委員。

能勢委員 能勢でございます。6ページに今質問がありましたけれど、コロナによって図書館に来られないとか書店に行けないとか、そんなことが電子書籍の予算化にプラスになったということはすごいことだと思います。昨年は300万に対して今年は900万、約3倍ですね。私が申し上げたいことは電子書籍が始まったのが去年の8月からですからね。ですから1年たっていないことでそれで3倍の予算が取れるというのは見た方が中央図書館の電子書籍に対する対応が非常に良かったと思う。多分インシヤルコストが相当かかったと思うんですが是非それが資料費とは別に今年も取れたわけですが来年度へも向かって是非資料費とは別にがんばっていただきたいと思っております。それでほとんど資料費の中に入ってしまうと本が買えなくなると。電子書籍の定価というのは高いんでほしい本の定価の2.1倍、2.2倍ぐらい。だから本を買う数が非常に減るといふ弊害がありますよね。その点、お知恵をいただきたいと思いますが私去年8月から始まった電子書籍の活用のなかでどういうふうな方が利用されたのか、もう1つはどういうジャンル、ビジネス書なのか料理書なのかどういうふうなジャンルが読まれたかということですね。それからもう1つは電子書籍というのはいわゆる個人読書だと思うんですが、集団読書として学校図書館とタイアップするのと非常に大事だと思うんですよ。3点について誰がどんな本を読んだか、学校図書館との対応がどうであったか、それを知りたいと思います。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。まず利用の年齢層ですけれど、今のデータの中では1月末の実績になりますが、貸出については約1万1千冊を超えて、最も多かった世代は小学生が多かったです。次に40代がきて、それから50代、60代、30代という層に読んでいただいたということで。また予約につい

てですが、やはりこれも小学生が一番多くなっております。続いて先ほどと同じように40代、それから50代、貸出の方は60代が次にきているんですけど、貸出と違って予約は、30代の方が増えておりまして次に60代の年齢層になっております。それからジャンルですけど、やはり先ほど言ったように小学生が多いものですから児童書が多い。それから実用書、旅行関係書、るぶといったそういったものが多く出ている。あと趣味の例えば料理本だとかそういったジャンルが多い傾向がございます。それと学校との連携ですけど、今の時点では、利用カードを持っている小学生は、電子書籍を今ギガタブが学校で配布されておりますので、その関係で小学生の利用が多くなっていると思うんですけど、利用カードを持っている小学生の方々がかなり読んでいただいていることを受けて、まずはギガタブでカードを持っていない子ども達も見られるようにしたいと事業者と協議をしております。それとともに先ほど言ったように例えば読書会、小学校の読書会で皆が見られるようなことについても、著作権の問題もございますので、今、事業者の方と、どのようにしたらそういうことができるようになるか、それから当然学校側の協力も必要になってきますので教育指導課等、学校関係と協議を来年度進めていきたいと思っております。以上でございます。

吉野委員長 ご説明ありがとうございます。はい、石渡委員からお願いいたします。

石渡委員 石渡です、よろしく申し上げます。今の質問は資料1について全部お話ししてまわってよろしいのでしょうか。

吉野委員長 はい、そうです。資料1の。

石渡委員 ご説明いただいた内容でなくても大丈夫なんですね。はい。今の電子書籍の件なんですけど、300万で購入したということでその本の利用の仕方を私も聞きたかったんですけど今回約3倍購入するということで今度の冊数などはどうなっているかということと、それから今の状態と同じようなものを購入するということなんでしょうか。電子書籍、私もやってみたんですけどなかなか難しくってどんな本が入っているか。図書館って行くと背ラベルがあって選べるわけですが、そういう体験は電子書籍ではしづらいなと思ったんですけど。そのような使い易さなどはどうなんだということ。今と同じ形式で冊数が増えるということなんでしょうか。先日は青空文庫も結構あったということで。あといくつかいいですか、すみません。全然また違うことなんですけど、サービスポイントがまたいろいろ増えたりすると思うんですけどその件について伺いたいと思っております。どうもサービスポイントという言葉がよくはわかりわからなくて、現状ではサービスポイントというのは返却ポストと理解してよろしいのでしょうか。ここのなかには返却がしやすくできると書いてあるものから。例えば駅とかで貸出ができたらいいなと思うんですけど、そこまで整備されるということなんでしょうか。それから学校関係のことなんで気になるので伺いたいんですけど、学校レファレンスカードはその後よく使われているんでしょうかということ。あとこれはご報告なんですけど、いろいろ言っちゃってすみません。私たちの文庫連絡協議会で小学校に行っているところがあるんですけど、そちらの小学

校へよく連携していただきまして公民館に本をおはなし会で使った本を展示したりできたのでとてもいい対応ができたと思っております。稲毛区の山王小学校なんですが、とても地域で連携していただいて良かったと思っています。もう1点なんですがすみません色々聞いちゃって。稲毛図書館お疲れ様でした。きれいになるので楽しみなんですが、ちょっとこれは余計なことなんですが私リクエストすると稲毛図書館でいただいています。いつもきちんと対応していただいているんですが、先日行きましたら、3月26日に工事が終わりますと貼り紙がしてあったのでよく状況がわかったんですが、私も終わるんですねとも言わずずっとそのまま帰っちゃったんですけど、考えてみたらそのカウンターの方からこれから工事に入りますとか今回、今週で終わりますよとかそういうアナウンスが全くなかったのでもやっぱり使う側からしたらできればそういうことって生の声で教えていただいたらありがたいなと思っておりましたのでそういうこともありますし、そのへんのところ声かけたりするようなそれもサービスのうちの1つだと思いますので、今後、花見川図書館でもそういうことがあるかと思っておりますのでちょっと心がけていただいたらいいなと思っておりました。すみません、以上です。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。電子書籍についてお答えいたします。電子書籍についてはまず当初、約7,600冊提供してスタートしました。これは青空文庫もちろん含まれてスタートしております。それ以外に先ほど予算の中で300冊を選書した書籍を購入して合計で7,600冊ということでスタートしました。令和4年1月末現在ですけれど青空文庫の提供数が少しずつ増えていることから、今現在、約8,600冊となっております。来年度予算が増えたということで、これはあくまでも予算上ありますが、本の値段が先ほど能勢委員さんからございましたように色々値段のバラツキがあるものですから予算分として選書の分を1,600冊選書していきたいと思っておりますけれど、これはあくまでも予算上になりますので実際には購入したあとの位とると、今のところ考えております。それからどのような書籍を購入するかということですが、今年度の状況を見ながらやはり予約、貸出とも文学が多いということで小説を中心に。それから所蔵の少ない絵本、利用数の多い児童書、実用書、旅行関係書など、今回の利用状況をふまえて選書していきたいと考えております。

中島館長

それでは2番目にご質問いただきましたサービスポイントにつきましてご説明させていただきます。サービスポイントですけれども現在は返却ポストということになるかと思っております。図書館ビジョン2040の中には石渡委員さんがおっしゃっていただいたように図書の取次をする窓口といたしまして図書のイメージとして駅ですとか皆さんが集まるような場所での返却貸出ができるようなものをイメージしているところでございます。こちらに関しましては全市的に進めていくところがございまして今後どうしていくかというものを今私共の市の内部で検討しているところでございますので今後サービスポイントをどのように展開していくかというのは検

討中というところでございます。以上でございます。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課です。学校レファレンスカードにつきましては2月5日現在になりますけれど利用回数が、小学校が111回、利用学校数が24校、貸出数が489冊。中学校におかれましては、利用回数が23回、利用学校数が12校、利用貸出数が135冊となっております。合計が、利用回数が134回、利用学校数が36校、貸出冊数が624冊という状況になっております。まだやはり使用実績がなかなか伸びない状況でもありますので、今後さらなる周知を図ってまいりたいと思っております。以上でございます。

中島館長

続きまして文庫連さんの方でやっていただきました山王小学校さん、どうもいつもありがとうございます。その中で、公民館で本の展示ができたという先進的な事例をお教えいただきましてありがとうございます。今後そういうのが広がることできるように公民館の方とも教育振興財団の方になりますけれど指定管理者の方とも情報を共有しながらどうかたちでできるかというのを今後検討していきたいと思っています。最後に稲毛図書館の窓口での対応につきまして、大変申し訳ございませんでした。今後、稲毛図書館もまだこの後何日かして再開いたしますし、あとおっしゃっていただきましたように花見川図書館、若葉図書館と続きますので、その際にも皆さまに伝わるようなかたちで一人でも多くの方に伝わるようなかたちでご案内等していきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。ご質問については以上でございます。

石渡委員

ありがとうございます。先ほど図書の電子書籍の冊数1,000冊とおっしゃったかそこだけ聞き漏らしまして。

山崎情報資料課長

予算上で1,600冊を予定しております。

石渡委員

1,600冊ですね。ありがとうございました。

吉野委員長

ありがとうございます。

木元委員

今に関連していいですか。今の石渡委員の質問に追加でいくつか聞きたいのですが、電子書籍というものの購入の仕方というのを私たちもよくわかっていないのですが、いくつか調べたところライセンス式で有効期限があったりとか、貸出上限回数が設定されていたりとか、中には2年間たつとそのライセンスは消滅してしまう、52回貸し出されたら消滅してしまうというものもあるとお聞きしました。どういった状況でライセンスを購入されているかというのが1点とあとサービスポイントについて千葉駅周辺並びに稲毛駅周辺にサービスポイントを設置するというのが、入札情報の方にありましたがそれは今年度中に設置されるのかと。稲毛駅は稲毛図書館が近いですし、千葉駅はそごうの中にもサービスポイントがありますし、中央図書館も徒歩7分位のところで行けるんですが。そのサービスポイント、ポストを設置する基準みたいなものがありましたらお聞かせ願いたいと思います。すみません。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。電子書籍についてお答えいたします。委員のおっしゃるとおり、電子書籍には2種類の書籍があります。これは本によって、それから出版社によって形態が変わるものがございます。1つは購入して永久に残る書籍と先ほど委員がおっしゃったとおり2年間、もしくは52回これはレンタル購入になりますが、2年間及びまたは52回読まれたら自動的に解除になるというものがございます。選書についてはそういったこともふまえて、例えば旅行の本だとか実用書とか、こういったものというのは情報が古くなってしまふ。やはり情報が新しくなってくるということを考えますとレンタルの方が、効率がいいという事も考えて、できるだけそういうものはレンタルで買うように。それから小説の方はやはり長く読まれるものもあると思いますので、購入分としてできるだけ選書していきたいと考えております。ただし、小説関係でも今なかなか購入とレンタルと両方あるので、仕方なくレンタルになってしまう場合もありますけれど、人気があって読まれる本であれば継続してレンタルをしていくという方法もございますので、そういったかたちで、選書会を開いて選書してまいります。

中島館長

続きまして中央図書館管理課でございます。サービスポイントの関係でご質問いただきました入札情報もご確認いただきましてありがとうございます。現在返却ポストなんですけれども、三省堂書店のそごう千葉店、イオンモール幕張新都心に返却ポストを設置しているところでございます。こちらのポストなんですけれど、図書館に来館しなくても図書資料の返却ができるようになりまして図書館の利用者の皆さまの利便性向上に大きな効果を生み出しているものと私共考えております。また新たな返却ポスト等サービスポイントですけれども、だれでも容易に利用ができて、そして利用者が多い場所への設置ということが今までの返却ポストから考えましても利用者の皆さまの利便性に向上するものというふうにとらえています。また返却ポストも市の施設等に置くことができればいいんですけれども、今までのそごう千葉店、イオンモールにおきましても民間事業者との連携という点もございますのでそういうご協力が得られるところということで現在のところ選定しているところでございます。以上でございます。

山崎情報資料課長

すみません、先ほど能勢委員の中でお答えを忘れてしまったものがありますので一点追加させていただきます。電子書籍の見せ方ですけれど、できるだけ電子書籍を借りてもらうよう、電子書籍のページ上で、図書館が普通の紙の資料で企画展をやっているように、電子書籍の中でも企画を10項目ですかね、企画ができるので、今後購入するものに関しては、そういった企画、新着本みたいなかたちのコーナーを設けたり、あと色々な企画を考えて常に図書が回転するような工夫をしてみたいと思います。すみませんでした。

吉野委員長

ありがとうございます。今のところは石渡委員からの質問ですね。通覧できないのかってことですね。ありがとうございました。では、その他。はい、能勢委員。

能勢委員 只今電子書籍に話が集中しましたが、これは図書館としての新しいサービスが始まったということで非常によろしいことだと思います。いただいている事業計画の中で移動図書館の活用であるとか、あるいは公民館図書室、その活用と促進そういうものも出ておりますが。私、公民館活動と図書館の活動というのは基本的には社会教育としては同じ根っこでありますけれども公民館さんの方が私はより積極的に地域社会に結びついているんじゃないかなと、というのは表現を変えると図書館は待ちであると受け身ですね。本、貸出するときのことね。それから公民館の場合には催事、そういうふうな行事を来てもらわなければいけないということで情報を非常に上手く発信している。情報の発信に関して私は地区図書館なんかにしてももう少し研究をしていいんじゃないかと。私、若葉区に住んでおりますけれど若葉区に公民館が8つあります。8つおじゃましてどういふふうにして地域社会にPRしているかということで、必ず公民館の場合には市政だよりに掲載していますね。ただし市政だよりに公民館の行事を載せるというのは原則として1つです。実際にはもっとやってらっしゃるわけ。それをどういふふうに補っているかという公民館だよりというのを彼らは持っているというんです。私はそれで公民館は立派だなと思ったのは、公民館だよりを地域の自治会、学校、関連機関に郵送はゼロです。全部、館長さんなり職員さんが持っていつている。そういうふうな図書館さんは図書館だよりというのを出していると思いますが、ただ図書館に置いてある。あるいは他の図書館に預ける。公民館と同じように外に出て行って配布をする。回覧というので自治会でいろんなものを回覧して。確かにコロナよって回覧の項目が減りました。行政からくる資料も減ったし、いろんな各所でやっている行事も減りましたけれども。でも非常に回覧自体が地域の人が見ているし、それから市政だよりは必ず見ている。市政だよりのこれは行事、情報掲示板に図書館の情報は年に1点や2点は読書週間のときには出るでしょうけれど非常に少ない。公民館の場合は何を見ていらっしゃいましたかという圧倒的に市政だより。ですから車でいらっしゃる方、駐車場が非常に少ないところは不利にはなりますけれど。現在は催事に対してほとんど抽選ですね。その位に人気がある。人気の根源というのは情報を回覧しているからだと思うんです。そういうことについて図書館の図書館だよりの活用はどういふふうに。地区の図書館の館長さんもいらっしゃいますけれど。お尋ねしたいと思います。

吉野委員長 事務局の方から少し説明いただけますか。

中島館長 中央図書館管理課でございます。ご意見ありがとうございます。図書館でも図書館だよりを作成させていただきまして、関係機関ですとかに、中央図書館の方からそこでお配りいただけるようお願いしていただいているところでございます。なかなか公民館と違いまして何とかの講座ですとか図書館の数としましては多いものではないので市政だよりに掲載するというのがタイミング的に難しいところもございまして図書館といたしましては図書館のホームページに掲載したり、館内に掲示したりですとか、その他今年度始めましたツイッター等で随時お知らせを流

させていただいているところでございます。ただ能勢委員さんがおっしゃられたとおり市政だよりを見ていらっしゃる方、そして地域の回覧等見ていらっしゃる方が多いというところでございますのでそのへんもどこまで、あと講座の人数も10人ですとか非常に少ないところもありますので、どういう広報の仕方が効果的であるかというのを各図書館で考えていきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。今の館長の話で市政だよりに出すものがなかなかタイミング的でないということを我々も認識しております。ただ地区館、中央図書館が行っている例えばおはなし会、春のおはなし会だとか統一してやられるものには、それから市民講座、読書まつり、こういったものについては市政だよりで広報しております。けれど、やはり各館でやられているものを個々に出すというのはなかなか難しいものですから、今館長がおっしゃったとおりSNSとかそういったものを活用しながら、その他どのような周知を今後していったらいいか中央図書館もちろん、地区図書館等でも検討していかなければいけないと思っておりますので、ご参考とさせていただきます。ありがとうございます。

吉野委員長 ありがとうございます。いかがでしょうか。他になれば、はい、綾部委員。

綾部委員 主要事業にあげております3番と4番ですね。市民インタビューによる記憶の保存、地域情報サービス提供事業について伺いたいと思います。これは2ページにも取り上げられており千葉市図書館ビジョン2040の中でも大きな項目として立てられた事業ですけれども、2ページを見ましても具体的にどう進捗しているのか今一つよく分からないので令和3年度にどのようなことがなされたか、令和4年度にどのような計画があるのかをお聞かせ願いたいと思います。それから1番の知のアーカイブ計画の方は、千葉市オーラルヒストリーとして収集保存しますということが書いてあるんですが、公開についてどのような考え方になっているかその点も併せてお願いいたします。

吉野委員長 では事務局お願いいたします。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。知のアーカイブ関係の中のオーラルヒストリー、市民インタビューということで今年度は民族芸能等として、登戸神社の神楽囃子さんとか、寒川神社の氏子青年会、検見川神社の神楽囃子殿、千葉妙見大祭、平和教育としてピーススタッフの方から。また親子三代夏祭りやジェフユナイテッド千葉、さらに昨年度もやりましたけれど、今年度も千葉氏や加曾利貝塚に関連ある方のインタビューを行って記憶を保存いたしました。来年度についてもまだ決まってはいないんですけれど、これから検討して本市の地域資源を中心に収集を考えて、そういった方々の市民インタビューを行っていきたく思います。それから集めた千葉市オーラルヒストリーとして収集保存したものをどうするか、どう公開していくかということですが、実は今、昨年5件分と今年度の10件行いましたけれど、15件分ですね、3月31日までに千葉市図書館のホー

ムページ上で公開することとなっております。以上でございます。

中島館長 中央図書館管理課でございます。デジタルアーカイブの関係でございますけれど、市民インタビューともう一つ、千葉市史をデジタル化して公開しているところでございます。令和2年度から始まった事業でありまして令和2年度に千葉市史の第1巻、そして令和3年度に第2巻。令和4年度ですけれども千葉市史の第3巻をデジタル化する予定でございます。今後、市史全部で12巻ございますけれども、こちらを公開できるよう進めていく予定でございます。以上でございます。

吉野委員長 はい、ありがとうございます。綾部委員大丈夫でしょうか。

綾部委員 ありがとうございます。内容がよくわかりましたので。大事な事業だと思いますのでどうぞこれからよろしく願いいたします。

吉野委員長 ありがとうございます。そのほか。はい、石渡委員。

石渡委員 すみません、先ほどあれだけ話したのに忘れていました。3ページ(2)の学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供というところなんです。現在グループ研究室等が全く使えなくなっておりまして大変不便になっております。こちらも2年経過しておりますので何か改善策はございますでしょうか。そこを聞こうと思っております。すみません。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。確かにコロナ禍の中で、なんとか自習室は解放するようにはしているのですが。やはり換気の問題等がある、あと空間が狭いところに人が入るところで、このコロナの状況がまだまだ続いている中で、申し訳ないんですけど今しばらく閉鎖させていただくということで、コロナの状況を見ているところでございます。

中島館長 すみません、追加をさせていただきます。グループ研究室は制限をかけさせていただいているところでございます。今、情報資料課長からも申し上げましたとおり全体的な状況を考えながら何がご利用者の対策をとりながら、他の施設図書館だけではなく、例えば公民館ですとか他の施設の在り方も考えながら複合的に今後考えていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

石渡委員 ありがとうございます。今現在、毎月団体室を使わせていただいていたんですが、使えなくて本当に不便に感じております。無料で借りられるところを借りるか、もしくは有料の生涯学習センターなどを利用させていただいているんですが。図書館隣接の生涯学習センターの部屋が空いているようなら一番勿体ないと思いますので例えば一室団体自習室に貸して頂けるとかそういう検討というのは特にされていないんでしょうか。今一週間前に借りますと700円位でかなり安く借りられるんですが、やはり手弁当で活動していますので700円でもやっぱり大変なところがありますし、今まで無料でお部屋を提供していただいていた大変ありがたかったですけれども。かなり不自由には思っております。そういうお部屋を例えばグループ研究室に利用させていただけるとか、生涯学習センターが一杯いっぱい予約がとれているようなら話が別なんです。部屋は空いていて使えなくてすごく

勿体ないと思いますので、それこそ有効に利用した方がいいんじゃないかと思うんでそのへんのところをちょっと考えていただけるとありがたいなと日々思っております。この機会に言わせていただきました。よろしくお願いします。

中島館長 ありがとうございます。そのご意見を頂戴しまして参考にさせていただきます。

石渡委員 よろしく願いいたします。

吉野委員長 ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。はい。

新澤委員 越智小学校の新澤でございます。学校の方で読書手帳をいただいたり、団体貸出やレファレンスカードの利用が先ほども話題に上がっていましたけれどもなかなか沢山利用している学校さんとそうでないところがありまして、本校でも図書館指導員に聞いてみたんですがやはりレファレンスカードも使っていなかったですし、読書手帳もなかなか使われていなかったものでせっかくいいものがあるので使っていきましょうと話していたところなんです。そのへんの図書館指導員への紹介を今までもしていただいていると思うんですけども、学校の図書館指導員の研修に講師で来ていただいて紹介していただくとか、おはなし会の実施に来ていただいた時に啓発活動していただくとかそういうことがあると大変ありがたいなと思いました。本校でも近くに公民館図書室がありまして、1年生が入学した時に4月に図書館のカードを作りましょうということで紹介いただいて申込書を配っていただいて子ども達がそれに書いて提出するというふうにしています。やはり地域の公民館図書室は身近ですごくありがたいなと思っています。それで作ったカードを夏にご紹介いただいた電子書籍を利用している子ども達もいます。保護者の方に学校から保護者との連絡アプリを利用して2回ほど連絡しましたので他の学校さんも同じ対応をしていると思いますので小学生にはかなり浸透したのではないかと思います。先ほどお話がありましたけれど、カードを持っていないお子さんは使えないので一人一台タブレットを子ども達持っていますので全員が授業の中で資料を見るために使えるようになるといいなと思っております。すみません、お願いなんです、質問ではなくてよろしく願いいたします。以上です。

山崎情報資料課長

中央図書館情報資料課でございます。ご意見ありがとうございました。参考にさせていただきます。先ほど1点だけ、学校図書館指導員さんにおかれましてはレファレンスカードについては情報資料課担当課長補佐が、研修会があったときに出向いて周知はしております。ただ、先ほど言ったようにまだまだ周知が足りない、いろいろな機会を設けて周知ができるようになればということで、来年度も周知に力を入れていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

吉野委員長 大丈夫でしょうか。ありがとうございます。その他なければ、はい。

木元委員 すみません、8ページの図書館老朽化への対応についてお聞きしたいと思います。花見川図書館とこてはし台公民館の複合化の件ですが複合化されて花見川図書館の敷地面積が花見川団地分館よりも小さくなるということが先日、説明会に参加させていただいてわかったんですが、花見川図書館は今後とも地区

図書館としての機能や千葉市図書館の組織の中の位置づけはそのままなのかそこをお聞きしたいのと。あと面積や蔵書数がかなり減るのですが、そこも職員数が減らされることはないのでしょうか。図書館と複合して効率的な施設運営を理由に公民館を委託している教育振興財団の方に図書館を委託するようなことがないか、そこをすごく危惧しております。今後花見川図書館や若葉図書館についても同様なんですけど、市民や図書館協議会と検討するような開設準備委員会のようなかたちで事前に市民の声を届けるような場を設置して頂きたいと思うのですがそのあたりはいかがでしょうか。もう1点すみません。花見川図書館の自動貸出機を設置とありますが何台くらい設置をする予定なのかと。せんえつですが1台いくら位の金額で設置というのができるものか。自動貸出機の使用にはICタグを本の方に貼りつける必要があるんですけどその貼り付け作業というのはどなたが行っているのでしょうか。それも業務委託としてどこかに発注するのかわるか。それをお聞きしたいのとそれにちょっと関連するのですが3ページの先ほど石渡委員がおっしゃった、学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供とあります。この中に、施設の改修等にあわせ取組みを推進しますとあります。要は、市民に学びができるようなミーティングルームというのがあるんですか。今回、花見川図書館ではそういったお部屋は設けられませんでした。これは2040の方針と相反するものではないかということをお聞きしたいです。すみません、以上です。よろしくお願いいたします。

吉野委員長 ありがとうございます。これはあとの資料の報告事項で花見川図書館の件が報告されますがこちらで説明されますか。

木元委員 それでもいいです。進行の都合で。

吉野委員長 予定されている説明で含まれるのであればそれはその方が効率的かと思いついて。

中島館長 では後ほど説明いたします。

吉野委員長 では後ほど今のご質問も含めてということをお願いいたします。はい、ではその他よろしいでしょうか。では議題の方はここまでとさせていただきます最後に今ご報告いただきました令和4年度事業計画ですけれども来年度の図書館評価のサービス計画の基礎資料になってくると思います。今年度の図書館協議会、前回ですね。評価がわかりにくいというご意見いただいておりますので評価項目につきましては事務局の方でもご検討頂いて外部評価部会の方でお取りいただいとしますのでよろしくお願いいたします。では議事ひとつこちらの方で終了いたします。続きまして次第の(2)その他ということで事務局から説明をお願いいたします。

(2)その他

中島館長 事務局から報告事項として3件ご説明させていただきたいと思っております。3件ございますので、まず3件続けて説明の方させていただきます。まず最初に資料2でございます。花見川図書館・こてはし台公民館の複合化についてでございます。

す。

《花見川図書館・こてはし台公民館の複合化に関する説明》

中島館長 続いて、休館スケジュールにつきましては花見川図書館よりご説明させていただきます。

三浦花見川図書館長

花見川図書館でございます。今の資料の裏ですね。3ページをご覧くださいと思います。

《花見川図書館・こてはし台公民館の複合化に関する説明》

中島館長 加えまして先ほど木元委員さんからご質問ありましたところについて追加をさせていただきます。まず新しくなりました花見川図書館の体制でございますけれど今後きちんと対応させていただきたいと考えているところでございます。続きまして自動貸出機がどの位かかるのかということですが、賃借をするものでございますので月額リースというかたちになります。3点目、ICタグは誰がどのように準備するのかということですが、4月から休館に入りますので、花見川図書館の職員がICタグを貼って準備をしております。続きましてミーティングルームのお話ですが先ほどもちよっとご説明させていただきましたが、2階が公民館という複合施設になりますので相互利用ができるように運用を工夫しているところでございます。続きまして、千城台公民館・若葉図書館の移転につきましてご説明いたします。

《千城台公民館・若葉図書館の移転に関する説明》

中島館長 最後に、稲毛図書館空調設備工事等に伴う一部利用の制限解除につきまして稲毛図書館よりご説明いたします。

平岡稲毛図書館長

稲毛図書館でございます。いつも大変お世話になっております。皆さん資料4をご覧くださいと思います。先ほど議事の中で石渡委員から若干お話にふれていただきました。ありがとうございました。

《稲毛図書館空調設備工事等に伴う一部利用の制限解除に関する説明》

中島館長 全ての説明が以上になります。よろしく願いいたします。

吉野委員長 ご説明ありがとうございました。先ほど木元委員からのご質問にも答えていきつつというところでしたが、木元委員よろしいでしょうか。

木元委員 1点だけ。職員数は減らないのか、そのところを今後検討という。

中島館長 はい、今後検討でございます。

木元委員 わかりました。ありがとうございました。また発言してよろしければ、他の方ありましたらどうぞ。

吉野委員長 今の報告3点まとめてになりますが、先に石渡委員からお願いします。

石渡委員 ご説明ありがとうございました。この資料がそのまま利用者に渡るということで、先ほどのご説明だったんですが。

吉野委員長 どの資料ですか。

石渡委員 全てなんです、この2、3、4という資料というのは近隣の方々にこの資料がいくつあることでしょうか。そうしましたら気になることがいくつかありましたので。今ご説明聞けばわかったんですが、例えば花見川図書館の件なんですブックポストのところ非常に気になるなと思って見たんですが、下の方によく見れば、こてはし台公民館でブックポストが使えますと書いてあるんですけども、上にはそっけなくブックポスト利用できませんと書いてあるのでブックポストは使えないんだと私すぐ思いました。こてはし台のロビーの方に加えておくとかちょっと分かり易くないと。ブックポストが1年間使えないって非常に大変なことだと思うので気がついてちょっとここ検討があるかなと細かいことなんですけれども思いました。それから若葉図書館のこの資料、私も分かっていなくて、今一生懸命見たんですがここに書いてあるのは公民館、図書館移転のことなんです。他に読めないんですがここに保育所と何でしょうか、昭和の和、令和の和で始まるこの何とか園って書いてあるんですがこれはなんか施設ですね。そのことに関しては一切ここには書いてないんですが、書いてないですね。でも小学校跡地にかなり広い面積でここに入るわけですね。でもそのことに関しては一切ないですけど、何か意図はあるんでしょうか。私がもし近所の人だったらこれは知りたい情報なので他のところでもし書いてあるならともかくなんですけどちょっとやはりこれは足りないと思うので。もしこれを近隣に配るのでしたら1行でも2行でも説明はあって欲しいなと思いました。あとすごく申し訳ないんですが、稲毛図書館皆さん良くしてくださるんですが、本当に一言も窓口のところこれから貸出できませんよとか、もう開きますよといった説明が一切なかったのは図書館の方で言葉のサービスというか一番大切どころだと思うのでそれは是非心がけてお金のかかることではございませんし、そこはちゃんとしていただきたいと思います。すみません、細かいことばかりで。

平岡稲毛図書館長

稲毛図書館でございます。実は最初のうちはご案内していたんですが、やはりコロナの関係でかなりお叱りを受ける方の中にはいらっしやいまして躊躇してしまう部分もあります。全ての方ではないんですがやはりコロナの状況で以前のようにフレンドリーにやりたいんですが、ここにビニールシートがあって中には極力聞かれたことだけ答えなさいみたいな高齢者の方の中にはいらっしやいます。なかなか窓口の対応がコロナの状況で難しい状態です。職員の方には戻りましてフレンドリーに対応するように伝えます。そういうコロナの状況もあってそういうご利用者様も中にはいらっしやいますのでご理解いただきたいと思います。かなりお叱りを受けたことが実際ありますのでご理解いただきたいと思います。なお今後、職員の方には委員からお話があったことしっかり伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

石渡委員 いつも通っていてすごく不満いうわけではないんですけど、カウンターのここに紙があるんですが一切くれたりしないんですね。やはりそこはもうちょっと対応

があるべきかなと。喋れなくても紙を渡すとかできると思うのでそれを拒否されちゃったんじゃないんですけれどコロナだからといって努力しないのは違うと思うので。お叱りを受けて大変だと思いますが、すみません。

中島館長 続きまして、ご意見頂戴いたしました若葉図書館の件でございます。2月19日に地域の皆さまに説明会を実施しました。その際は千城台南小跡地・西小跡地というかたちでご説明させていただいたかと思えます。今回は若葉図書館・千城台公民館その単体の施設に限ってご説明の資料を作ったものでございます。全体像といたしましては資産経営部門でやっておりますので今回は全体像を出さずに単体の施設分だけで皆さまにご説明させていただいたところでございます。地域の皆さま、ご利用者の皆さまにはこれからご案内していく予定でございますので。つきましては資料の作り方等は検討したいと思います。ご意見ありがとうございます。

石渡委員 今ちょっと説明がわからなかったんですが、じゃあこれは何を。図書館のことだけということですかね。

中島館長 若葉図書館が移転しますよというお知らせをかせさせていただき予定でございますので、そちらの資料というかたちで考えております。

石渡委員 そうですか。全体って書いてあるので、せめてちょっと字が読めるぐらいの字にしたらいかなと思うんですが。字がつぶれてて読めませんし、もう少しきちっとした資料を出してもらいたいなと私が地域の者でしたら思います。そこはちょっと注意してください。

中島館長 ご意見ありがとうございます。

三浦花見川図書館長

花見川図書館でございます。ブックポストの臨時窓口につきましては今おっしゃる通り、分かりにくいのでより分かり易く利用者の方が困らないようなかたちで周知できるよう努めてまいります。ご意見ありがとうございます。

吉野委員長 よろしいんでしょうか、木元委員。

木元委員 もう一度よろしいでしょうか。すみません、私何度も若葉図書館のことでお話しているんですが、資料3の2検討経緯のところなんですが。見ていただくとわかるんですがこれ全部、資産経営課が担当してやっています。なのでお知らせがあったとしても千城台地区学校跡施設の利活用検討員会からで図書館のことだと誰もわからないんです。令和4年2月19日に、移転についての住民の説明会というのもこれも検討委員会にあててランドデザインの説明をただで広聴者は意見も質問もできませんでした。その傍聴のご案内についてもまた図書館のとの字もありませんでした。千城台地区学校跡地利活用検討委員会というのも移転先の千城台南小学校の近隣の自治会の方たちだけなんですね。若葉図書館の移転に関してなんですけど若葉区民には一切お知らせがない状況でここまでもう進んでいます。そのことがとても心配で、若葉区の図書館ですから若葉区の図書館でのあり方とか千葉市の図書館がこれからどんなサービスを展開

していきたくのかとかそういったことをまず考えた上で施設や職員や設備などを検討して、そして移転してこういうものを作っていきたくという方針みたいなものを出していただきたいというのがまずあるし、皆さんそれを聞きたいと思っているんですね。なので若葉区の方でもなんで南小跡施設に移転することになったのか。ここがまだ納得できていない方多いです。花見川の説明の中でもなんで複合化しなくてはならないのかというのが多かったですね。それは移転するまでの段階をもう少し丁寧に説明して地域の方の声をもう少し聴いていただきたかったなというふうに強く思いました。この地域は高齢化、花見川もこてはし台の地域の方ですね。高齢化といっていますが若い方も住み始めています。なぜコロナ禍であって避難所として公民館と図書館を複合化して縮小化しなくてはならないのか。その部分が納得いかない。そんなことされたらこの地域は死んでしまいますという声もありました。なので先行してどんどん計画ばかりが先に進んでいってその後でいくら丁寧に幅広く皆さまに声をお聞きし、施設の方向性を検討していきますというふうにあってもこれまでもアンケートもワークショップも実施されてもその声は全く届いておりません。そういった組織の在り方というか新しい施設のつくり方についてきちんと庁内会議の方でももう少し図書館の在り方、図書館はこういうサービスしたいからこういう施設を欲しいし、こういうふう地域の人々の声を集めたいとおっしゃって、そこから変えていただかないと何をやるにしてももう決まっているから私たちの声は届かない。この協議会の中でいくら声を出してもその声は全く届かない。そのことがいつも悲しいと思いますし、何度もすみません、皆さまには耳にタコができると思いますけれど何度も何度もここで言うておりますのでその点をご検討いただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

中島館長 中央図書館管理課でございます。ご意見ありがとうございます。まず若葉図書館につきましては今年度、木元委員さんがおっしゃられたようにグランドデザインを策定いたしました。このグランドデザインというのは施設の配置の方向性を定めた計画でありまして、資料3の裏側にありますように配置計画図のここはこちら側にきますというようなものでございます。今木元委員さんがおっしゃられたように、図書館の例えば施設の配置、施設の中の配置ですとかそこにつきましては来年度基本計画を策定していく予定でございますので、その前にアンケートですとかワークショップを実施していく予定でございます。ご意見ありがとうございます。

吉野委員長 はい、ありがとうございます。これからというところの部分もあると思いますけれども結構度々お聞きいただいているところですので周知の方など工夫していただければと思います。ちょっと時間が過ぎていますが、その他、何かございますでしょうか。いいですか。もうないようでしたら以上をもちまして本日予定しておりました議事を終了となります。貴重なご意見、ご質問等ありがとうございます。また議事の進行に対しまして皆さまにはご協力いただき誠にありがとうございました。

<閉会>

【問い合わせ】

千葉県教育委員会事務局

生涯学習部中央図書館管理課

TEL 043-287-4081